

あとがき

ノイジーマイノリティという言葉を御存じだろうか？ 声高な少数派などの意で、古くから政界では認識されているそうである。対義語はサイレントマジョリティである。医療機関はどこも、ノイジーマイノリティに振り回されている今日この頃ではないだろうか？ 「御意見箱」でもきわめて非寛容な御意見にしばしば遭遇する。「〇〇先生は感じが悪い」といった御意見もよくあるが、漠然と「感じが悪い」という意見こそ上から目線で感じ悪い。

誰でも SNS で発信できるようになってから、ますます幅を利かせている。さらに、元々人目を気にしたり付度したりしやすく、故三波春夫氏の「お客様は神様です」を「お客様の言うことは絶対」と曲解している日本人では、振り回される度合が特に大きいのではないだろうか？

先日「Google クチコミ被害者の会」を立ち上げた医師や歯科医師らがグループを集団提訴するとの報道があった。患者側は事実や根拠にかかわらず、好き勝手に書き込み、同社もそれを事実上放置し、医療機関側からの具体的な反論は、守秘義務などで難しく、正に「なぶり殺し」である。さらには「言う通り処方しないと、悪口を書くぞ」と脅す事例や、低評価のクチコミを書き込み、削除と引き換えに金銭を要求し、断るとさらに悪いクチコミを書き込む事例があるらしい。こうなると立派な強要・恐喝である。

ノイジーマイノリティを増長させるのが、マスコミで、裏のサイレントマジョリティの存在に(おそらく意図的に)触れない偏向報道に終始しがちである。「犬が人を噛んでもニュースにならないが、人が犬を噛むとニュースになる」という、商業主義も根底にあるのだろう。

もちろん、ノイジーマイノリティがノイジーになる背景として、マイノリティがマジョリティ基準に合わせられず、切実に困っているというケースが、なかにはあるかもしれない。

要は、このような切実な「声」と、単なるカスハラ・ペイハラの類の「ノイズ」を切り分け、マジョリティとマイノリティがお互いを尊重し理解し合うことが大切なのだと思う。(玉木 毅)

[編集委員]

石河 晃
大山 学
阿部理一郎
玉木 毅
朝比奈昭彦
本田 哲也

臨床皮膚科 (第78巻 第7号)

2024年6月1日発行(毎月1回1日発行)

定価：3,190 円(本体 2,900 円＋税 10%)

(2024 年年間購読料(増刊号を含む 13 冊、
税込、送料弊社負担)
冊子版 45,870 円
電子＋冊子版/個人 47,872 円
電子版/個人 42,372 円)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 俊

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 編集室(03)3817-5715(担当：小松原・今田)

販売・PR 部(03)3817-5650

ファクシミリ(03)3815-7802

E-mail：rinhifu@igaku-shoin.co.jp

印刷所 三美印刷(株)

広告取扱 (株)文京メディカル 電話(03)3817-8036

別刷取扱 販売・PR 部 電話(03)3817-5696

- ・Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2024, Printed in Japan.
- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社医学書院が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・[JCOPY] (出版者著作権管理機構 委託出版物)
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- ・医学書院ホームページ(インターネット)は <https://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- ・「臨床皮膚科」URL <https://www.igaku-shoin.co.jp/journal/412>
- ・「臨床皮膚科」は株式会社医学書院の登録商標です。